

大豆情報

令和元年 Vol.2

令和元年8月19日

宮城県石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612 Fax : 0225-95-2999

7月以降の気象経過

<7月> 上旬・中旬は低温・寡照傾向、下旬は多雨傾向

日平均気温は上旬が平年差 -0.7°C 、中旬は平年差 -0.4°C と低くなった一方で、下旬は平年差 $+1.3^{\circ}\text{C}$ と高くなりました。日照時間は上旬が平年比88%、中旬は平年比90%、下旬は85%と月を通して平年よりも少なくなりました。降水量は上旬が平年比74%、中旬は平年比55%と少ない一方、下旬は平年比231%と非常に多くなりました。

<8月上旬> 高温・少雨傾向

日平均気温は平年差 $+3.2^{\circ}\text{C}$ と非常に高くなり、日照時間も平年比151%と多くなりました。降水量は平年比4%と非常に少なくなりました。

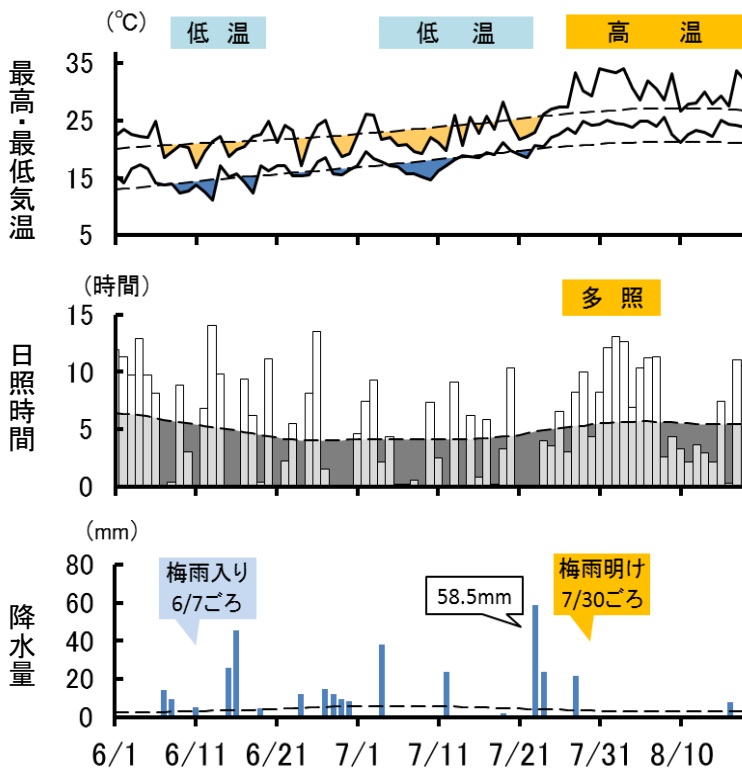
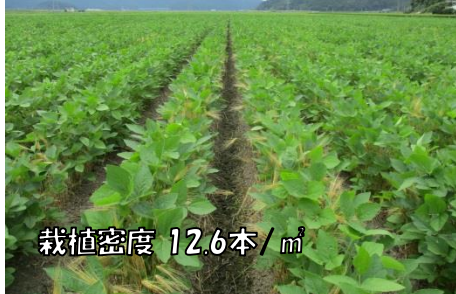


図1 気象経過(アメダス石巻) ※点線は平年値

調査ほの生育状況(8/9)

主茎長は平年より短く、分枝数は平年より少ない

タンレイ(水沼) 6/17播種



栽植密度 12.6本/m²

ミヤギシロメ(小船越) 7/9播種



栽植密度 10.6本/m²

タチナガハ(蛇田) 6/8播種



栽植密度 13.3本/m²

タンレイ(広瀬) 6/26播種



栽植密度 15.1本/m²

ミヤギシロメ(牛田) 7/3播種



栽植密度 11.9本/m²

表1 調査ほの開花期と8月9日調査結果

品種(作型)		播種日 (月日)	開花期 (月日)	栽植密度 (本/m ²)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数	
地点名(旧市町)							(本/本)	(本/m ²)
タンレイ (普通) 広淵(河南)	本年	6/26	8/11	15.1	31.8	9.5	0.2	2.5
	前年差・比	+9日	+10日	127%	-31.6	-4.6	-1.6	12%
	平年差・比	+12日	+8日	105%	-24.2	-4.1	-2.0	8%
タンレイ (麦あと) 水沼(石巻)	本年	6/17	8/03	12.6	52.0	11.6	1.3	16.8
	前年差・比	+5日	+4日	94%	-16.3	-2.0	-1.6	43%
	平年差・比	+2日	+1日	91%	-8.8	-1.4	-1.8	39%
タチナガハ (麦あと) 蛇田(石巻)	本年	6/08	8/05	13.3	43.9	13.1	1.5	20.6
	前年差・比	+1日	+10日	136%	-4.8	-0.5	-1.3	74%
	平年差・比	-10日	+2日	113%	-10.0	-0.0	-0.5	90%
ミヤギシロメ (麦あと) 小船越(河北)	本年	7/09	未確認	10.6	22.1	6.6	0.6	6.6
	前年差・比	+14日		112%	-26.7	-5.8	-1.7	30%
	平年差・比	+25日		107%	-46.7	-7.5	-2.5	21%
ミヤギシロメ (麦あと) 牛田(桃生)	本年	7/03	未確認	11.9	30.2	8.6	1.0	11.4
	前年差・比	+19日		135%	-21.7	-3.0	-1.4	55%
	平年差・比	+14日		106%	-30.2	-4.4	-1.2	48%

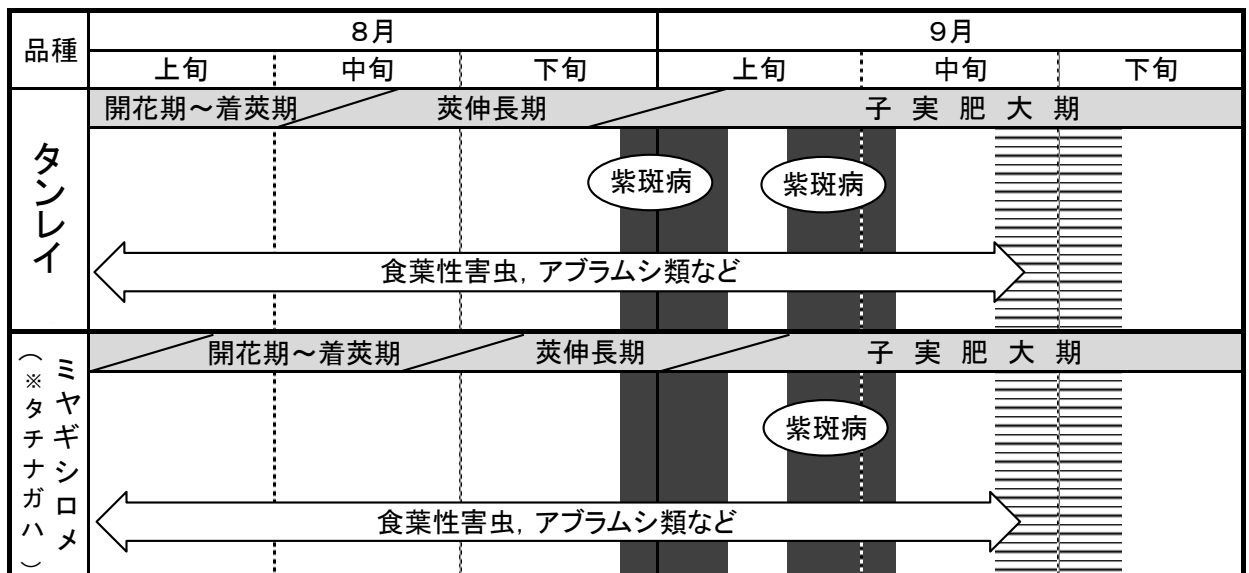
※1 平年値：H26～H30の5か年平均。

※2 「-」は早い、短い、少ない、「+」は遅い、長い、多いを示す。

- ◆主茎長および1m²当たり分枝数は、5箇所すべてのほ場で平年よりも短く(少なく)なっています。主茎節数は、蛇田のタチナガハが平年並で、その他のほ場については平年より少なくなっています。
- ◆開花期は5箇所すべてのほ場で平年よりも遅くなっています。ミヤギシロメは播種が遅れたことから、8月9日調査時には開花を確認できませんでした。
- ◆食葉性害虫による食害が散見されています。

今後の管理

◆病虫害対策



※ タチナガハの生育ステージの進行は、タンレイとミヤギシロメの中間程度です。

マダシクイガ、フタジヒメハムシ
ダイズサヤタマハエ、カメムシ類

(多発時)
カメムシ類

図2 主要病虫害の防除体系例

○ **紫斑病 …> 開花期の20~40日後に防除**

開花期の20~40日後に1~2回薬剤防除を実施しましょう。特に「タンレイ」では発生が多いので2回の防除を徹底しましょう。2回防除の場合、1回目は開花期後25日頃、2回目は開花期後35日頃に防除を実施しましょう。

○ **子実害虫**

☆ **マメシクイガ …> 8月末~9月上旬に1回目、その7~10日後に2回目の防除**

今年の発生量は「やや少」の予想ですが、連作4年以上のほ場や多発ほ場では防除が必要です。

※ アグロスリン乳剤、プレバソンフロアブル5は1回防除で高い防除効果の報告があります。

※ プレバソンフロアブル5を使用する場合は、残効が長いのでやや早めの8月下旬に防除しましょう。

☆ **カメムシ類 …> 8月下旬~9月上旬に防除、多発時は9月中旬~下旬に追加防除**

発生量は「やや少」の予想です。マメシクイガと同時期の防除が基本ですが、多発時には、9月中旬~下旬に追加防除

しましょう。

○ **食葉性チョウ目幼虫**

食害葉面積20% (右写真)を目安に防除しましょう。



○ **ジャガイモヒゲナガアブラムシ**

例年8月下旬~9月上旬が発生のピークです。

葉の黄化・褐変が見られたら葉の裏を確認し、発生量が多い場合は早めに防除しましょう。

○ **タンレイ**

▶ **紫斑病対策を最優先**

○ **ミヤギシロメ・タチナガハ**

▶ **マメシクイガやカメムシ類等の防除を優先**

◆ **雑草対策**

◎ タデ類、シロザ、アメリカセンダングサ、イヌホオズキ等の雑草が収穫時に残っていると汚粒の原因となるため、非選択性除草剤の畝間散布(雑草草丈約15cmまで)や手取りで除草を行いましょ。

◎ 9月以降、多くの雑草が開花して種子をつけ始めるため、イヌホオズキやアレチウリ、アサガオ類等の難防除雑草の多いほ場では、早めに除草を行いましょ。

「大豆作における難防除雑草アレチウリの対策」(普及に移す技術第90号)に詳しいアレチウリの防除対策が掲載されています。

※ アレチウリは「外来生物法」によって「特定外来生物」に指定されており、生きたまま移動させることが禁止されています。防除を行う際にも、生きた植物体(発芽可能な種子も含みます)を発生区域外に持ち出さないよう十分に注意して下さい。

◆湿害対策

◎ 大雨のあとや、降雨が続く際はほ場を見回り、**排水が保たれているか確認**しましょう。

排水溝は詰まっていないか



明渠に停滞水が溜まっていないか



<参考>

◆乾燥対策

◎ 大豆は開花期以降、大量の水を必要とします。土壌の過乾燥は、落花・落莢による減収の原因となるので、晴天が7日以上続いて土壌が白く乾燥し、日中の葉の反転(右下写真)が半分以上となるような場合には、畝間かん水や暗きょの水閘(こう)を閉じるなどの対策が必要です。

※ 莢伸長期～粒肥大期(開花後11～42日)にかん水すると、稔実莢数が多くなり、莢先熟株の発生を抑止できるとの報告あり(富山農技セ)。

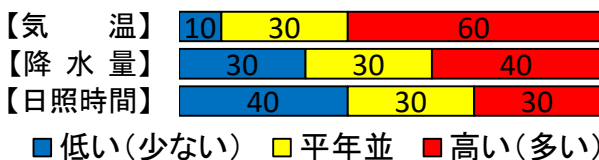


1か月予報 (8/17~9/18)

仙台管区气象台 8月15日発表

<特に注意を要する事項>
期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

○1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



○週別気温経過の各階級の確率(%)

